



文化センターの「つぶやき」ならぬ「ぼやき」で文化センターへの旅を...

文：卒業されてから美術の先生に？
澤：美術の先生にはなっていないんです。もう結婚が決まっています。たまたま縁があった養護学校で半年間だけ臨時講師として副担任をやっていたんです。結婚して越前市に来てからは児童館で絵を教えながら、子育てしながら、絵を描いていました。

澤：そうですね、高校では芸術コースがある学校に進学し、デッサンや油絵を描いてました。大学は教育学部で美術教育を専攻し、その傍ら絵は独学で描き続けていました。

文：教室はいつたん辞めて、部活動で続けていらしたんですか？
澤：そうですね、高校では芸術コースがある学校に進学し、デッサンや油絵を描いてました。大学は教育学部で美術教育を専攻し、その傍ら絵は独学で描き続けていました。

澤田有季（以下澤）：私もスポーツとかは得意じゃなくて、（小学）一年生になるときに、親にお絵描き教室に通いたって自分から言ったみたいで、他にも習い事はしていたんですけど、どれも続かず。絵だけはすごく楽しくて、先生も褒めてくれるので六年間楽しく通って、そのまま絵を描き続けてるっていう感じですね。
文：教室はいつたん辞めて、部活動で続けていらしたんですか？

文化センター（以下文）：幼少期はどんなお子さんだったのか、何ともよろしいでしょうか？
さいとうかおり（以下さい）：スポーツが苦手で、手芸とか編み物をしたり、絵を描いたりしてました。授業中にノートの端っこにマンガを描いたりとかしてましたね。

今回は、結婚を機に越前市にいられてイラストレーターとして活躍されているさいとうかおりさんと澤田有季さんのお二人にお話を伺いました。



あなたに聞きたい！

右：さいとうかおりさん
左：澤田有季さん

文：私は大学には進まず、高校を卒業してからいろんなところを転々と。大阪にも住んでましたし、オーストラリアに行ったり、いろんなことをしてたんですが、不意に東京に行ったんです。やっぱり周りが刺激的で、いろんな学校があったり、展示もあつて、昔の絵を描きたいって『想い』が出てきたんです。当時は働いていたんですが、武蔵野美術大学がやっていた一般向けの色々な年齢層の方が通える美術スクールに一年間通ってイラストを学び、その後にはデザイン会社に勤務して、イベントの企画をしたりソフトを使ってデザインをしていました。

ただ、東北の震災で、会社の仕事が減ってしまったんです。その時に「空いた時間に好きなことをやりましょう」と、社長が「絵本作り」を提案して下さって。社長がコピーライターをしていたので、お話を書いて、私が絵を描いて、コンテンツにたくさん応募したんです。そこでまたま賞を頂いたのがきっかけで絵をやるようになりました。

文：お二人の作風はがらりと違うと思うんですが、その源流ってどこにあるんでしょうか？
さい：私は絵本を手掛ける前は、雑誌とかファッション誌のイラストレーターになりたくて、いろんなコンテストに応募してたんですけど、ある編集の方に、「あなたの絵は絵本向きです。おしゃやれなイラスト向きではありませぬ」と言われて（笑）。自分の絵を見つめ直して、結果的には子どもの絵でいいなあって思ってた。

見た人に喜んでもらったり、楽しい気持ち、温かい気持ちになるような、ちょっとユーモラスな絵を描きたいなって、だんだんそういうタッチの絵に変わっていききました。ほんととお洒落な感じの絵を目指してたんですけどね（笑）。でも実際子ども向けの絵を描いてみたら、いろんな人から「おもしろい」と言ってもらえて、自分はそのまま進んでいきたいなって思いました。

澤：絵画教室に通つてるときは先生も絵描きさんで、『絵画』って感じだったので、マンガとかゲームの絵は教室では描かないよって環境でした。アニメとか好きだったんですけど、「アニメ」と絵は別物で子どもの頃は思っていました。でも大人になるとだんだん世の中で、アニメ

つばい絵も『アート』だつて言われるようになってきて、それで混乱してしまつて。絵画も好きだけど、絵画だけやってると今の自分の感覚とは違うんじゃないかっていうので、いろいろ試行錯誤しているうちにマンガの「かわいい」キャッチーな良さと絵画がうまくミックスされた絵本作家さんを見つけて、その人達にすごく憧れて真似して描いてるうちに、今の作風がしっくりくるようになりました。

文：イラストと一言で言っても多様になってきました。今後についてお聞かせください。
さい：色々なものとミックスして描いたり、自分のタッチは「これ」って決めるのではなくて、皆さ

んが見て、あつと思うような作品を作ったり、いろんな形に変化していきたいなとは思っています。

その中でも絵本はやっぱり描いていきたいなあと。デジタルが多くなつてきたんですけど、その中でも手描きの絵を大切にしていきたいですね。

澤：私は、以前はイラストって企業から依頼されて描くものだと思っていたので、特に依頼を受けずに自分の描きたいものを描いている自分は「画家だ」と考えていました。

でも、最近ってイラストレーターも自分でオリジナルの絵を描いて、それを同人誌やグッズにして販売したり、自分発信で作ってる。SNSの発達などでそういう活動がやりやすい時代になつていいるのかなと思います。

これからは自分の好きなものを自由に、楽しみながら発信していけたらいいなと思っています。
文：みんなに伝えたい、イラストの魅力って何ですか？
さい：白いところから作り上げていって、それが出来たときの達成感は何とも言えないですし、自己満足は大切ですけど、周りの人から感想をいただけたら、よかつたよって言ってもらえるのが励みになつてモチベーションが上がっていくのいいと思いますね。

澤：人とコミュニケーションを取ったり、言葉で自分を表現するのが得意ではない人もいると思います。そういう時に、絵で表現することで親や友達に共感してもらったり、「こいういうイラスト描いて」というコミュニケーションが生まれたり

することもあるので、一つの表現手段としてすごくいいなと思います。
文：7月の展示会に向けて一言お願いします。

さい：一人でも多くの方に来ていただいて、自分の活動を知ってもらい、来て下さった方に絵を好きになつてもらいたい、描いてみようって気持ちになつてもらったりして、どんどん皆さんが絵を描いたり見たりすることが「普通」になつてくれる人が増えたらいいなと思います。

澤：十一年くらい前に個人で展示会をさせていただいたことがあつて、その時から、今までの絵を、ちよつと昔の絵とかも混ぜて並べること

で、今までの集大成というか一つの区切りとして充実した展示にできたらいなと思つています。

お二人の展示会が七月に越前市ふるさとギャラリー叔羅にて開催されます。是非お越しください！！

Happy Dreaming! イラスト二人展

日 時：2022年7月20日(水)～31日(日)
10時～18時

※7月25日(月)休館
※最終入館は17時30分(最終日のみ16時まで)

会 場：越前市ふるさとギャラリー叔羅
入場料：無料

期間中にワークショップもあります！
(要事前申込・要参加費)
詳しくはチラシをご覧ください。



Happy Dreaming!
イラスト二人展
2022.7.20(水)～31(日)
越前市ふるさとギャラリー叔羅
10:00～18:00
※7月25日(月)休館
※最終入館は17時30分(最終日のみ16時まで)
会 場：越前市ふるさとギャラリー叔羅
入場料：無料
期間中にワークショップもあります！
(要事前申込・要参加費)
詳しくはチラシをご覧ください。

お二人の展示会が七月に越前市ふるさとギャラリー叔羅にて開催されます。是非お越しください！！

夏は笑って暑気払い!!



上方落語会

第77回 文化センター寄席

2022年 7月18日 (月・祝)

午後2時開演
開場 1時15分

出演: 桂雀三郎 桂わかば 桂吉の丞 桂二豆

毎年恒例! 桂米朝一門による落語会。
四者四様の上方落語をお楽しみください。
演目は当日のお楽しみ!

越前市文化センター 小ホール

第77回文化センター寄席 上方落語会

日時: 2022年7月18日(月・祝) 14時開演

会場: 越前市文化センター小ホール

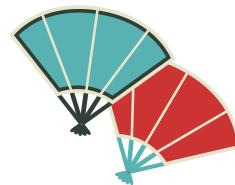
入場料: 一般 2,000円 友の会 1,800円 大学生以下 800円
(全席自由席)

出演: 桂雀三郎 桂わかば 桂吉の丞 桂二豆

毎年恒例! 桂米朝一門による落語会。

四者四様の上方落語をお楽しみください。

演目は当日のお楽しみ!



いまだて芸術館に
足をのばして...

春風亭小朝独演会

日時: 2022年8月28日(日) 14時開演

会場: 越前市いまだて芸術館

入場料: 一般 4,000円 友の会 3,500円
(全席指定席)

テレビでもお馴染みの春風亭小朝が皆様に
素敵な笑いを届けます。



春風亭小朝 独演会

令和四年 8月28日(日)

(開演13:30) 開演/14:00

越前市いまだて芸術館

ふるさとアーティストプロジェクト

やまのひ ほっこりコンサート

日時: 2022年8月11日(木・祝) 14時開演

会場: 越前市文化センター小ホール

入場料: 一般 1,000円 友の会 800円(全席自由席)

出演: Hiromi(たけながひろみ/ギター弾き語り)

演奏サポート: やましん(ギター)・今泉真弓(マンドリン)・小川正博(パーカッション)

ゲスト: 井上真知子(オカリナ)

Bunvoya!11の「あなたに聞きたい!」でもお話を伺った越前市出身・在住の武永浩美さんのギター弾き語りコンサート。ご来場の方に抽選で焼き菓子のプレゼントもありますよ!



武生生まれの武生育ち。子育てがひと段落した45歳の頃、趣味でギターを始めました。

音楽未経験、平凡人生の私でしたが、昨年念願のオリジナルアルバムを制作することができました。こんな私とほっこりとした午後を一緒にいただけたらうれしいです。

ふるさとアーティストプロジェクト

やまのひ ほっこりコンサート

「あの頃もし演奏があったら?」
Hiromi(たけながひろみ)さんによるオリジナル楽曲や
Hiromi(たけながひろみ)さん、やましん、今泉真弓、小川正博の
ユニットのライブ、夏の思い出など

会場: 越前市文化センター小ホール

2022 8.11 (木・祝)
open 13:30 start 14:00

入場料: ¥1,000 (友の会 ¥800) 全席自由
抽選で焼き菓子プレゼント



公演後、青島広志さんと一緒に♪



越前市文化センタージュニア合唱団

こうのとりの日記

6月8日(水)「オーケストラ・アンサンブル金沢ファミリーコンサート越前公演」に出演しました!

今まで何度も歌ってきた大好きな曲「未来への行進」と「なかまのうた」それから「さんぽ」をオーケストラの演奏で歌いました。オーケストラの演奏で歌うのは初めてでした。

当日、「さんぽ」の振り付けを青島広志さんから教えてもらいました。とてもおもしろい振り付けで、会場の皆さんも一緒にのどることで超ハッピーでした。

はじめはドキドキでしたが、本番では元気に歌えたと思います。とても楽しかったです。

こうのとりの日記では一緒に歌う仲間を募集しています。一緒に歌おうさ〜♪

サポートスタッフ募集!!

越前市文化センター・越前市いまだて芸術館では、自主文化事業イベント業務等をサポートしていただけるホールボランティア(サポートスタッフ)を募集します。

文化ホールの運営業務に関心をお持ちの方や積極的にご支援いただける方のご応募をお待ちしています。

8月2日(火) 19時~ 文化センター会議室にて説明会、接客マナー等の研修会を予定しております。

(研修費無料)

お問合せ・お申し込みは越前市文化センター(TEL: 0778-23-5057)まで。

年齢: 20歳以上の方

主な活動内容: 自主公演業務(チケットもぎり、来場者の受付、会場案内等)

情報発信(ダイレクトメール発送、ちらし挟み込み、公演等事業のポスター、ちらし配布・掲示等)

※原則として活動は無償とし、報酬・交通費等はお支払いいたしません。

※ボランティア活動保険に加入します。(当事務局で費用負担します。)



※越前市文化センター事業の案内は、ホームページに掲載しています。

<http://www.jigyodan-city-echizen.jp/bunka>

※Bunvoya!掲載の全ての講座・催しについては越前市文化センターまでお問合せください。

＜発行・編集＞2022年7月 越前市文化センター 越前市高瀬2丁目3-3 TEL: 0778-23-5057 FAX: 0778-21-1975

Bunvoya!は越前和紙を使用しています